

# 学習とパーソナリティ

東信堂

「おの手はおどろきなさい」

成績はいいんですよ、これをどう見るか

学術的に見て、「深い学習(deep learning)」の代表的な論は、マルトンら(Marton & Salter, 1976)の「学習への深いアプローチ」である。彼らは、知識が単独で暗記のように記憶されるのではなく(これが「浅い学習(surface learning)」の定義である)、「さまざまな知識や経験、考えとの関係の中で関連づけられ、構造化される学習の重要性を説いた。

「深い学習」は、意味を求める行為である。意味の原義は「繋がり(connecting)」にあり、私たちはこれまで繋がっていなかったものが繋がったとき、「ああ、そうか」という意味がわかった」と言っている。

関連づけよという活動がなされるからこそ、うまく関連づけられずに理解していないことがわかったり、うまく関連づけられずに疑問が生じたり、関連づけのためのフレームが関連していたりすること(誤解、誤った概念)に気づくのである(本章の「6」の議論も併せて参照のこと)。

学習指導要領改訂に向けての答申(2017)で、「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)が提示された。そこで「深い学び」は、次のように説明されている。学術的に説明した上記の深い学習に近い説明である。

深い学び 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連づけより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び。(傍線部は筆者による)

この説明の中で傍線部は、習得の学習として求められる深い学習を説いている。そして、傍線部以降は、習得だけでなく活用・探究として求められる深い学習を説いている。こうして、習得・活用・探究という学びの過程を、深い学習の観点から総合的に説いているとまとめられる。

講義を聴いてなるほどと思っても、自分の言葉でいざ説明となると、うまく言葉で表せないものがある。

「自分の言葉で説明する」というのは、自身の頭の中にある知識と知識、事象と事象とを繋いで筋を作ることである。これが、前述してきた「関連づけ」という活動であり、書く・話す・発表する等の外化としての「アクティブ・ラーニング」の基本的特徴である。

アクティブ・ラーニング型授業とは、単元や学習目標に応じて、講義+アクティブ・ラーニングの組み合わせをバランス良く実現していく授業形態のことである。この考え方のもとでは、講義が否定されるどころか、むしろ単元や学習目標によって推奨されるものである。

学習目標によっては講義がなされるべきであり、学習目標によってはアクティブ・ラーニングがなされるべきだとい考え方は、双方のバランスある組み合わせが求められている。

学力がトランジションを実現するための知識や資質・能力を身に付けることにあるのであれば、座学は必要不可欠である。なぜなら、大人になつての職場や社会生活においても、座学は研修や講演会等の中で少なからず存在するのであれば、それは学力がないことを意味する。大人になつて必要とされる座学がでないといふのであれば、それは学力がないことを意味する。

「座学」は、「学力」下位層の生徒学生にも必要なものである。

そもそも、進学校の生徒というのは、アウトサイダーによる進出力が高い傾向がある。アウトサイダーというものは、外側(ワトサイド)に準拠点があつて、内(イン)なるものを外側(アウト)の準拠点に合わせる力学のことである(溝上 2017)。自分が何かをしようと内なる要求(内発的動機)がはじかれるのではなく、外側(ワトサイド)から求められること、期待されること(外発的動機)がはじかれることである。これは、ワトサイドから求められること、期待されること、外側(アウト)の力学のことである。この力学のことを指す。

進学校の生徒の多くは、これまでアウトサイダーの力学で人生を生ききてきて、多かれ少なかれ達成感や成功体験を持っている。言い換えれば、教師が求めること、期待することを読み取り、それに合わせることは彼らの十八番である。「適応(adaptation)」とは、まさにこのワトサイドの力学のことを指す。

「学習パラダイム」とは、教授パラダイムに相対するものである。

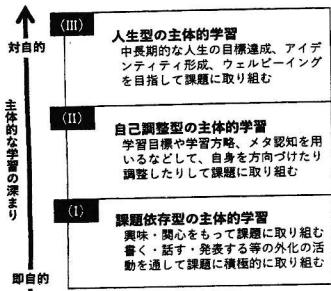
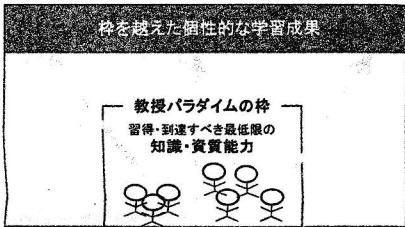
教授パラダイムが「教員から学生へ」知識を伝達されることを特徴とするのに対して、学習パラダイムは「学習は学生中心」「学習を産み出すこと」「知識は構成され、創造され、獲得されるもの」を特徴とする。

学習パラダイムを提唱したタグ(Taggart)は、自身が述べるように、教授パラダイムを見渡したとき、両パラダイムは決して二項対立の関係にあるものではない。教授パラダイムに基づき、講義で学生に知識を伝達する時間はあつてよく、その時間はこのパラダイム転換によって否定されてはいない。

タグが「学習パラダイム」(教授パラダイムの活動を拡張、教授パラダイムを越えたところ)に私たちを移動させるのである(37) 38頁、カッポ内は筆者が挿入し述べたように、学習パラダイムは教授パラダイムを越えて、個性的に学習活動を豊かに拡張、発展させるものである。

図表13 学習パラダイムに基づく枠を越えた個性的な学習成果

※溝上(2017)、図表2-3(p.22)を改良。



図表 16 主体的な学習スペクトラム

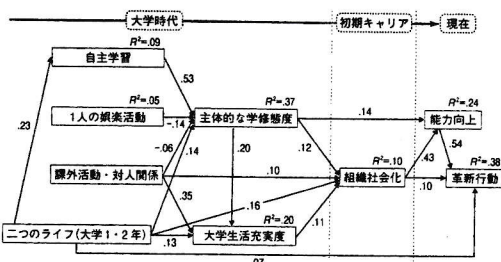
※溝上(2018a)、図表39(p.109)を改良。

的な学習はある。それは、第一層と次に説明する第二層の自己調整型との間に、あるいは第三層の人生型との間に位置するものと考へては、学習目標(毎日単語を10個覚えよう、「難しい問題でもあきらめずに取り組み」等)や学習方略(繰り返し声を出して単語を覚える)、「難しい問題は後回しにして、難しい問題を解答する」等)、メタ認知(自分の考えの矛盾に気づく)、「課題によって学習方略を使い分け」等)を用いて、自身(自己)を方向づけたり調整したりして課題に取り組み学習を指す。

学習課題の中には、興味・関心を持っているから持てないものまで幅広くある。第二層では、興味・関心を持ってない課題も含めて、学習目標や学習方略、メタ認知等を用いて自己調整をおこなう、課題に進んで取り組み学習の姿を指す。

第三層の人生型の主体的学習とは、中長期的な目標達成(英検合格に合格する)、「将来弁護士になる」等)や「アンティテーティ形成(私は何者?)」ウエルビーイング(幸福)を目指して課題に取り組み学習を指す。

なぜ学ぶのか、学習を通してどのような自分になりたいのか、といった学習の意味が、自身(自己)の過去や未来の事象に関連づけ作り出され時間的連続性、それが今この時間空間的な意味を作り出すという自己物語を学習に反映させるものである。



図表 4 大学時代の経験が初期キャリア後の仕事に及ぼす影響 (パス解析)

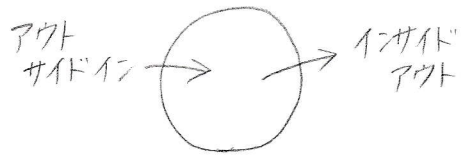
(原田・溝上、印刷中、同日より抜粋)

Figure 13: Learning paradigm based on transcending the framework of individual learning achievements. Figure 16: Subjective learning spectrum. Figure 4: Path analysis of the influence of university experiences on career.

今日のテーマ  
アクティブ・ラーニング - 主体的・対話的で深い学び

知識を相互に関連づける

化石化した知識ではなく生成する知識 = 生きる力



教育課程論 (第4回) リアクション

2018年 10月 26日

番号

名前

1 前回のリアクションを読んだ感想

皆、決山書いていてとても素晴らしいと思いました。自分では書けなかったことが決山あげられていて、とても見えて面白かったです。勉強になりました。これからの社会でこれだけ決山の能力を高めていくことは難しいと思います。なるべく多くの能力を活かせるように努力が必要だと思います。

2 溝上慎一『学習とパーソナリティ』では、どのようなことを強調しているのか。

なぜ学ぶのか、学習を通してどのようになりたいのか、といった学習の意味が自身(自己)の過去や未来の事象に関連づけられて作り出され(時間的展望)、それが今この時間空間での意味を作り、学習に反映される。人生型の主体的学習は、過去の現在、そして未来へと、個人がどう生きていくかという自己物語を学習に反映させるものである。というところを強調していると思います。人と話し合っ、実際にやってみる、アウトサイドとインサイドの関係も強調されていると思います。

3 あなたは、社会に出てから人と協働して仕事をするのは、どのくらいのことか。 → ( 98 ) %くらい。

4 自分の興味や関心のあることが、学校や大学の授業で関連づけられたり、深められたりしたことがありますか。(「主体的、対話的、深い学び」になったことがありますか)

あります。私は小学校の教員にしたいので、尚愛大学にこれ、子どもについて決山学んで、主体的な学び、深い学び、同じ夢を目指す友達と話し合っ、積極的に知識を得ることもありました。実習にいて他で学ばない深い学び、すなわち、体感して学ぶことができました。自分の興味、関心に対して、深められています。

5-1 「私は〇〇に関心があります」という文章を書きなさい。

私は教育に関心があります

5-2 次にそれを疑問文に転換しよう。(例、「私はトランプ大統領に関心があります」→ (例「なぜ、トランプは大統領になれたのでしょうか」)

なぜ、教育はこんなに深いのでしょうか

5-3 それは「調べることが求められる問い」(A)ですか? それとも「考えることが求められる問い」(B)ですか? → A ( B )

6 5-2の内容(疑問文)に関して、どのように調べたり、考えたたりすればいいのか、人の意見を聞いて、考えてみよう(その結果を記載する)

私はこれからまた授業を受けたり、実習に行ったり、実際に教員になって体験してみたときに教育の深さがわかると思います。子どものかかわりや仕事場など実際にやってみると、感覚的にわかることは他にも決山あるのだと思います。なぜなら今まで学んできた先生がそうだったから。私もその先生になれるように、今からしっかりと学んでいきたいと思っています。

9 他の人のコメントをもらう。

( ) → いろいろ経験を通して、教育の深さがわかるといいですね

1 前回のリアクションを読んだ感想

文だけではなく、図も用いて書いていて、読みやすいと思った。  
自分の考えをしっかりと持っていると感じた。

2 溝上慎一『学習とパーソナリティ』では、どのようなことを強調しているのか。

知識をただ丸暗記するのではなく、さまざまな経験や考えの中に関連づけられ、構造されることが重要である。  
関連づけようとする活動が行われるからこそ、関連づけられずに理解していることがわかったり、疑問が生じたり、関連づけるフレームが間違えていたりする(気づくこと)で

3 あなたは、社会に出てから人と協働して仕事をするのは、どのくらいかあると思うか。 → ( 90 ) %くらい。

4 自分の興味や関心のあることが、学校や大学の授業で関連つけられたり、深められたりしたことがありますか。(「主体的、対話的、深い学び」になったことがありますか)

「なぜテストで競う必要があるのか」という問いに対して、友達と話し合うことにより、自分に新しい知識や考えが身についた。

5-1 「私は〇〇に関心があります」という文章を書きなさい。

私はジブリに関心があります。

5-2 次にそれを疑問文に転換しよう。(例、「私はトランプ大統領に関心があります」→(例「なぜ、トランプは大統領になれたのでしょうか」)

なぜジブリは国内外で多くの人に愛されるのか

5-3 それは「調べることが求められる問い」(A)ですか? それとも「考えることが求められる問い」(B)ですか? → A (B)

6 5-2の内容(疑問文)に関して、どのように調べたり、考えたたりすればいいのか、人の意見を聞いて、考えてみよう(その結果を記載する)

ジブリの作品を見た人に感想を散ってもらう

9 他の人のコメントをもらう。

(羽田) → 私もジブリに関心があります。私の意見は、国内外でも共通する面白さと感動力があるからだと思います。